

アフリカ/日本～貧困とアディクション

森川 すいめい 所属 独立行政法人久里浜アルコール症センター(精神科)  
自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門(研究生)  
NPO 法人 TENOHASI(代表) <http://tenohasi.org/>

【自己紹介】

1996年鍼灸大学を卒業し鍼灸師として働いた後、医学部へ入学。研修医生活を経て2008年度より久里浜アルコール症センター勤務。精神科医。趣味は旅とジャンベ。世界40カ国、主にアフリカアジアをバックパッカーというスタイルで旅をし、教科書にない世界を感じる事が生きがい。日本では路上生活者支援活動を8年間続けている。

【はじめに】

アフリカについて調べようと思うと、北アフリカと南アフリカに偏る。その他の地域についてはほとんど分からないのが現状である。そこで、今回の発表は、調べれば誰でもわかるアフリカではなくて、調べても出てこないアフリカについて、バックパッカー(泊まる宿を決めずリュック一つで行き当たりばつたりの旅をする)というスタイルで旅をして感じ知ったことを中心に紹介していく。

【誰もが簡単に知っていること】

1日1ドル以下で生活している人はアフリカでは圧倒的に多い。貧富の差が激しく、GN1600ドルという数字はその国の実態を表していない。世界では1日4万人が餓死をするがその大半がアフリカ。国勢調査ができないので、誰も現地の実情が分からない国が多い。

【旅をする理由～現地を感じるということ】

アメリカがイラクに爆弾を落とした日、イスラム共和国で若者に何重にも囲まれ、国境では銃で脅され、サハラ砂漠の町で1週間、軟禁という形で保護された。

「なんで、日本は、アメリカに従ったのだ」といわれた。死を予感しそうになった瞬間に、「アイ・ラブ・フセイン」と叫び、周り中が盛り上がった。メディアで加工された情報以外の、その国の人々のこころを感じることができる。

国勢調査ができない印象も、現地に入ると感じる事ができる。モーリタニア・イスラム共和国では、空港や国境で身体検査で、警備の人に検査室に連れられて、拳銃をチラつかせられながら「money, money」といわれた。シエラレオネでは、入国時の荷物検査で、「あれくれこれくれ金をくれ」と脅迫的にいわれた。

現地ラジオでは、連日、国境付近山賊、海賊に襲われた話が流れる。他国と戦争中で、軍隊の移動もあった。

【貧困と戦争】

【シエラレオネとダイヤモンド戦争】

平均寿命男 32.9歳 女 35.90歳(1995年)の国。植民地の歴史 と ダイヤモンド資源の国。

1961年に独立後40年間内戦が続いた。2000年11月停戦。原因はダイヤモンドを巡る利権(世界10位)だった。そのダイヤモンドの多くは欧米、日本へ流れた。大半が不正に取引されたダイヤモンドだったが、欧米でヤミの部分が現れて、正当な取引によって扱われることになった。このダイヤモンドの利権をめぐり、少年少女兵たちが、大人を殺していった。当時、手袋、靴下という言葉が流行っていた。それは、斧で両手を切る(手袋)、足を切る(靴下)ということが行われていたからだという。殺してしまえばそれまでだが、負傷させてかつ兵隊になれない状態の方が、有利だからだということだった。少年たちはゲーム感覚でこうした行為をするようになったという。

この国の30代の女性が、未告知でAIDS発症が理由で入院していた。戦争中にレイプされ感染。子供ができた。戦後は子供を養うために身体を売って生計を立てていた。NGOの助けで子供が学校に通えるようになっていた。森川帰国後、その母が亡くなったとメールが来た。その学校にはレイプをされた女性も多く通って

いた。NGOの方が言うには、HIVは国連軍を介してアフリカを拡がっているらしい。子供は親が安く売る、養えないので。売春宿では、子供ほど高く買われる。HIV感染率が低いから。世界のHIV感染患者は約4000万人で、そのうちサハラ以南のアフリカで2/3。スワジランドでは国民の33%が感染とのことだった。

### 【貧困とアディクション】

サハラ以南の、いわゆるブラックアフリカでは、酒もタバコ(バラ売り)も薬も高いので、一部を除いてアディクションは少ないようである。Pub med (医学文献検索ツール)で addiction と検索 17412 件ヒットするが、Africa addiction とすると 94 件しかない。多くは、エジプト、南アフリカという比較的ゆとりがでてきている国である。モロッコ、ナイジェリア、南アフリカでは大麻などの使用が多らしい。南西アジアで作られたものがヨーロッパに流れるにあたって経由→ギニアビサウでは大問題になっているということもあるのか。一方で、貧困ほど病気になりやすい、貧困ほど重病になりやすい、貧困ほど依存症になりやすいということは、公衆衛生学の分野ではほぼ常識となってきている。アディクションについては、買えないほどの人であればないかもしれないが、重病という点については想像し易い。ゴミの中で生活している人たちも多いなどで。とはいえ、日陰で、太陽(神)にあたらなければ飲んでいいんだと言って飲んでいたイスラム教徒や、空港の近くで、「金を出せ」と閉じ込めようとした薬物中毒の若者は確かにいたので、こうした問題は手付かずであることは間違いない。

### 【エチオピアのチャット】

エチオピア医師1人当たりの人口3万4988で、先進国では、人口10万人あたり222人が医師であるため、医師数が少ない。よって精神科医というのはもっとも少ないことは想像し易い。そんな国だが、主要貿易品目(2004年度:EIU)をみると、(1)輸出 コーヒー、チャット、オイル・シーズということがわかる。チャットとは、覚醒剤系の薬物と言ってもいいものらしい。これで、この国は潤っている。この国の東側では、大人の多くが、日本人が酒を飲むのと同じように夕方からチャットを使っていた。

### 【日本の貧困とアディクションは?】

ホームレスはアルコール依存症が多い?と言われていた。アルコールなどが原因でホームレスになった者の割合は7%前後(厚労省2003、自己申告)。森川の調査では、池袋でCAGE陽性者は14%。「肉体労働と酒は日本の文化」。「やめたいけどやめられない、やめる理由がない」という声。CES-D(うつ病スクリーニング検査)71.4%陽性。幻覚妄想のある者や、知的障害を持つ者は10%強あった。どうやら、路上生活とアディクションは関連していそうである。最近森川の関わった事例。福祉施設入所→アルコール依存症路上生活となった夫婦。福祉施設入所→3日前に酒が原因で無断外泊。刑務所出所→税金の世話になってやめられない酒の治療を受けてはいけなから、というのがあった。

路上生活者のほとんどが、もともと建築現場で働いていた方が多く、平均年齢は56歳前後で、ほとんどが身体を壊したために仕事ができなくなった者か、現在、仕事を継続しているが、アパートを借りるほど収入がない者がほとんどである。

本年度末、路上生活者の精神疾患について本格調査始動。

### 【まとめ】

貧困とアディクションは関連がある。日本では、路上生活者と貧困とアディクションは関連がある。メディアの情報では分からない世界は非常に多い。知るためには行くしかない。

【NPO法人 TENOHASI は路上生活者の社会復帰を支援している団体です】<http://tenohasi.org/>  
思想や運動はせず、本当に困っていることは何かを常に偏りなく検討しています。支援する側の人たちも、生活に障がいを抱えている方も少なくはなく、助け合っているという部分もあります。偏見の多い問題ではありますが、ご興味くださったり、もし偏見があるかもしれないと感じた方がいらっしゃいましたら、気軽に遊びに行く感覚でいらしていただければうれしいです。たくさんの出会いという喜びは、私たちの活動を支えています。